

## 第6回 中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会 （議事録要旨）

日時： 平成28年6月23日（木） 午後6時30分～8時30分

場所： 中央区役所 8階 第一会議室

議事次第：

1 開 会

2 議 題

(1) 中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会報告書概要（案）について

(2) その他

3 閉 会

<配布資料>

資料1 中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会報告書概要（案）

## 出席者【委員】

川村 岳人	大分大学福祉健康科学部講師
高橋 恵子	聖路加国際大学研究センター准教授
鈴木 健一	中央区立敬老館統括館長
吉田 千晴	京橋おとしより相談センター管理者
八木 英之	社会福祉協議会在宅福祉サービス部推進課長
木村 和代	民生委員（京橋地域）
平賀 淳子	民生委員（日本橋地域）
立岩 絹子	民生委員（月島地域）
川端 武二	町会役員（京橋地域）
安西 暉之	町会役員（日本橋地域）
小倉 さなゑ	ほがらかサロン構成員
小川 京子	高齢者クラブ連合会役員
佐久間 保人	天空新聞製作委員会構成員
長嶋 育夫	区民部長
黒川 眞	福祉保健部長
古田島 幹雄	高齢者施策推進室長

(敬称略：順不同)

次第	発言者	議事の状況又は発言内容
1 開会	高齢者福祉課長	これより第6回中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会を開催いたします。
2 議題 (1) 中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会報告書概要(案)について	会長	議事に入ります。事務局からお願いします。
	高齢者福祉課長	配布資料の確認。
	高齢者福祉課長	中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会報告書概要(案)について(資料1)説明。
	会長	多岐にわたる話し合いを汲み取って、わかりやすくまとめていただいた。ご意見、感想、ご質問、こういった話し合いの結果も反映してほしいということがありましたらぜひお願いいたします。
	委員	この調査をみると人づきあいは、環境というより本人の意思、それを求める意識がすごく影響するのではないか。ひとり暮らしより2人暮らしはどうしても相手を頼ってしまう。そういう人に対するアプローチ、本人の意思が本当に大事と感じた。
	会長	ひとり暮らしの問題はそれ以前の段階から問題の根っこがあり、同居家族に頼ってしまっていて、家族以外の人間関係構築の動機が生まれにくい。今のご意見、非常に貴重なご意見だと思うので、第5章の中で織り込むことも検討に値する。
	委員	高齢になって家族を亡くすとショックが大きい。
	委員	高齢者の中には、コミュニケーション能力が落ちてしまっている人もいる。思い込みが激しく、付き合うのが大変。そういう人は家族に助けてもらったり、訓練しなくてはいけないのではないか。活動する中でみんなが話し合うとか、人と理解し合うとかというようなものが、求められているのではないか。
	委員	頼まれたので会って話したが、いくら言っても結局、上げ足を取られる。手に負えない。体力的、精神的に消耗した。
	会長	かかわろうとすると、こちら側が疲弊してしまう。こうなる前に予防的な意味も含めて、人とかかわりを重視するという観点が重要なのではないか。専門職の皆さんに、今のお話を聞いてお感じになったことなどあればお話していただきたい。
	委員	私たちが言葉には気をつける。基本的にはわかりやすく、相手によって口調なども変えてお話を。どんなに丁寧に説明して

	<p>も、都合のいいところだけを捉えられてしまうことも多々ある。ほかの人に変わってもらったり、関係機関に助けを求めたりはしているが、それでも駄目だった時はご本人に次はどうするのかを聞いたりする。</p>
委員	<p>自分中心にものを言う人がいて、みんながそれに合わせていた。ある時、主人がキレて一喝したら逆におとなしくなった。下手に出ただけでは駄目かなということがあった。</p>
委員	<p>みんながそういうふうに行っていると寂しくなって、自分から多少譲歩するのではないか。</p>
委員	<p>これ以上、対応できませんとご本人に伝えることも必要かもしれない。</p>
委員	<p>地域で迷惑をかけているということ、最後は家族にも言わなくてはいけないのではないか。</p>
副会長	<p>決してレアなケースではない。みんなが相手にしてくれないのでいろいろ居場所は探そうとしている。若いうちから、交流というか、コミュニケーションを図っていくことが必要で、そういう場所があることが大事。1対1では疲弊してしまうので、みんなで分散しながら全体で見ていく仕組みを考えていく必要もある。言葉だけではない身体的なコミュニケーションも取り入れて発散していく。</p>
会長	<p>まわりを困らせている人は、実はその人自身が困っている人だと言われる。その人は何に困っているのか丁寧に読み解く必要があるが、民生委員などが一人でやるべき仕事ではない。その人の強みを生かすことにも関わる。家族あるいは職場でのコミュニケーションスキルと、地域社会でのコミュニケーションスキルは微妙に違う。高齢期になる前に地域と関わる、地域でコミュニケーションスキルを身に付ける必要があるのではないか。</p>
委員	<p>中央区で高齢単独世帯が多いということは、1人になってもこのまちに住み続けたい人もいるということだ。行政の役割のどこかに、「高齢者の孤立が比較的少ない地域であるが、住み続けたいまちになるようさらにこうしていく」というような文言を盛り込めるか考えていただきたい。</p>
委員	<p>高齢者のためにいろいろ考えている方も大勢いるのに、高齢者が高齢者を騙す、老々詐欺が多くなったというニュースにがっかりした。うちの町会に若い頃の経験を生かして盆踊りのときに若者の帯を締めてあげたり、年末の夜警のときに温かい飲みものをつ</p>

	<p>くったり、町会行事にいろいろと協力してくれた方がいた。この間、救急入院し、他県の実家に引き取られたが、元気なときに、万一の時の連絡先を教えてくれてあった。こういう引き際はいい。心がけの悪い高齢者もいるので気を付けていただきたい。</p>
会長	<p>一人になっても中央区に住むことを希望する方がいる、つまりそれだけ中央区が魅力的な場所である。それを下支えしているのが行政であるということをもう少し明記して、こういった方々の思いに応えるというご指摘をいただいた。</p> <p>帯を締めるスキルを若い方々に生かすというのは、まさにここで話し合ってきた、その人の強みを生かして役割をつくり出すということにほかならない。</p>
委員	<p>いきいき館や「通いの場」は遠いので、佃の方にできないのという方もいる。そういう計画はあるのか。</p>
高齢者福祉課長	<p>「通いの場」は身近なところで、高齢者が歩いていけるところにあることが一番大事だと思う。やってくれる方が増えたら、行政としては支援していきたい。</p>
委員 高齢者福祉課長	<p>場所まで自分たちで探さなければいけないというのがあるのか。例えば集合住宅の中の集会室とか、お金を出して借りないといけないところもあると思うので、そういった支援も検討している。</p>
委員	<p>ひとり暮らしの方は会話をしたい方が多い。「通いの場」に連れていきたいが歩けない、往復タクシーも大変だと思っていた。近くにできる計画があるかをお聞きしたかった。</p>
委員	<p>先日、居酒屋を借りてフォーク喫茶をやったが、60歳の人もくれば若い人もくる。「通いの場」とはちょっと違うかもしれないが、世代を超えて来られる場もいい。そこの経営者は地域に貢献したいということだった。だれがアプローチするか、思いついた人がやるしかない。推進していく人が出れば、場所は見つかる。</p>
委員	<p>人口は増えているので、佃地区にもあってもいいかもしれない。マンションの中など。</p>
委員	<p>マンションだと、ボタンを押さなければ入れないので、あなたついてきてくれないとか言われると、私も困ってしまう。</p>
委員	<p>受付に誰か紙を持って立っていればいい。集会室は空いている。</p>
委員	<p>行かれない方もいるので、私はチラシなどを持って訪ねて会話をしよう努力している。認知症のある方がいて、家族が世話をできないということだったが、こまめに様子を見に行くとか、おとしより相談センターとの連絡を密にしていたら、最近だんだん良</p>

<p>会長</p>	<p>くなってきた。地域の人たちがみんな支援している。こまめな心遣いが大事ではないかと思って行動させてもらっている。</p> <p>身近に居場所があることが大事で、そういうニーズを持っている方がかなり多い。そういった場をどうやってつくるかが次の課題になるが、地域の資源を柔軟な発想で捉えてうまく活用すれば広い意味での居場所の機能を持たせることができるというヒントをいただいた。</p> <p>こちらから話しかけることの重要性に関して、地域の高齢者全体に声をかけるより、特定の方にあわせてアプローチをしていくことが重要と教えていただいた。</p>
<p>委員</p>	<p>ほかにこれだけは報告書にあげてほしいとか、報告書に対してお気づきになったことがあるという方はご意見をいただきたい。</p> <p>この報告書をどうするのかをお聞きしたい。区民、地域にどうやって伝えていくのか。何かのイベントと組み合わせ、区民に伝えるような機会などないか。活動者同士の交流ということが行政の役割として出ているので、そういう方々に説明会や報告会を開く、民生委員が集まる会で報告する、報告会とイベントをあわせてやるなどの機会をきちんと設けるべきだと思う。</p>
<p>高齢者福祉課長</p>	<p>この報告書（案）の内容を固めて、印刷をして、報告書というかたちで区民の方に読んでいただきたい。ホームページにもアップする。区の施策を考えていく上で、5つの提言をいつも頭の中に置きながら事業を組み立てていく。</p> <p>高齢者施策推進委員会で報告し、高齢者の計画策定は提言を生かして考えたい。民生委員協議会で説明したり、おとしより相談センター、社会福祉協議会などで開催する講座で活用したりするなど、様々な機会での報告書を使っていきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>6回にわたってじっくりと話し込んだ内容を網羅している報告書なので、ここで留めておくのはもったいない。いかにして区民に周知し、実際に施策化していくか、地域を動かしていくかが次の課題になる。私からもぜひお願いしたい。</p> <p>報告書（案）についてのご意見を整理すると、高齢期に入る前、あるいはひとり暮らしになる前に地域での関わりを持つことが重要という指摘をいただいた。</p> <p>愛着のある中央区で住み続けられるような、ひとり暮らしの高齢者の方々の思いをしっかりと受け止めることの重要性もご指摘をいただいた。</p>

	<p>こういった内容を報告書に反映していきたいが、加筆、修正は、会長一任ということでお許しいただきたい。(拍手) この内容でご承認をいただいたということで進めさせていただきたい。</p> <p>6回にわたり活発なご意見をいただき本当に有り難うございました。懇談会の感想なり、今後の取り組みへの期待など、委員の皆さまからお一人ずつ、順番にお話いただきたい。</p>
委員	<p>いきいき館の運営者として、報告書に基づき運営していきたい。国あるいは行政の負担も変わってくるし、今後、高齢者だから大事にするというのではなく、団塊の世代にどんどん活躍してもらうことを今後の運営で役立てていきたい。「通いの場」といきいき館が今後連携し合う関係にあれば非常にいいと考えている。</p>
委員	<p>元気な方々が地域で世代を超えてつながるのが大切だ。いろいろな課題を抱えて出て来られない方々に対し、関係機関や地域住民の方がやっていたことを知ることができた。そういう横のつながりも大切だ。ここで知った情報を相談に来た方や家族の方に説明したり、情報提供したこともあり、普段の仕事にも生かした。</p> <p>皆さまから刺激を受けて私自身も得るものが多かった。過去の議事録をみながらこの報告書を見させていただいたが、よくまとめられている。公助、共助、互助、自助とよくいわれるが、もっと強くアプローチしてもいいのかなという気もある。仕組みがあっても自分が行かなければ始まらない。行くということは自分を助けることなので、自助を促すような、行こうという気持ちをどれだけ持ってもらうか、自分なりに取り組みたい。</p> <p>もっと進めるにあたって、コーディネーターの存在は重要だと強く思う。それが社会福祉協議会、おとしより相談センターなどの役目だと思うが、さらに取り組んでいくためにも、旗振り役、推進役を担う人の存在が大切だ。</p>
委員	<p>「通いの場」を試験的にやっていて、どうしていいかわからない状態だが、こういう会に出させていただいて、真剣に取り組まなくてはいけないという責任を感じる。お互いに助け合う地域には何か良い空気が流れており、そういうまちで育った人がお互いに助け合う間柄になる。そうしたつながりをつくる場があるというのが、私は本当に大切だと思っている。</p>
委員	<p>私の地域にはいきいき館があるので、見守りなどでみんなに助けられ、いきいき館にみんなが元気にきてくれるという、本当にいい地域だなといつも感じている。この懇談会に出て、いい刺激を</p>

委員	<p>受け、サロンなどもっと協力してやっていきたいと思う。</p> <p>この会に参加させていただき、本当にいい刺激と、皆さま方のご意見をうかがいながら、これからも私の役割を務めさせていただきたい。コミュニケーションをとるのが難しい方がいろいろなかたちで出てくると思う。私自身も遅しくならなければいけないが、これからはいろいろなネットワークをつくろうと思う。いつの日か、糸がほぐれて挨拶ができるようなかたちになればいいと思う。これからも頑張っていきたい。</p>
委員	<p>高齢者クラブで役員をしているが、今まで役員同士でこういう話をしたことがなかった。報告書をもう一度改めて読んで、役員会の中でも話したい。その旗振りをしたいと思う。</p>
委員	<p>一番役に立ったのは、私が発行している新聞の記事ネタがいっぱいここにあったこと。勉強になった。皆さんと知り合いになれたのが有意義だった。今後、この提言を民間ベースでやりたいと思っている。ぜひ行政の方にもお手伝いをいただきながら進めていきたい。</p>
委員	<p>皆さんがそれぞれ地域の方のことを考えていて真剣だと思った。前委員の新聞は内容のある新聞で、それを知ったことがよかった。「通いの場」ができたこと、それを広げていくことが大事ではないか。数が増えて、近くの自分の通いやすい場に皆さんがそれぞれ通えるようになり、孤立が少しでもなくなるような取り組みが進んだことがうれしい。まだまだ頑張っていてボランティアに力を注いでいかなければと考え直した。本当に参加させていただいてよかった。</p>
委員	<p>皆さんはそれぞれの地域で人の気持ちを汲みながら、おせっかい役をやっていらっしゃる。次の世代のおせっかい役を育てて、ぜひまた次の世代、また次の世代へと持って行っていただければと思う。この報告書は、これで終わるのではなく、いろいろな場面で細かい単位で説明をしていただければと思っている。長年住んだ中央区、終わりも中央区でと思う。</p>
委員	<p>これまで生きてきた中で、戦後生まれの人が経験できない、お金では買えない経験をいろいろさせていただいた。何かとこれからも役に立つことがあれば、役に立ちたいと思っている。</p>
副会長	<p>みんなの声が詰まったものが形になり、共有できた。「通いの場」が具体的にでき、住みやすい中央区になったと思う。今後は、行政が動く前に私たちがこの報告書をどんどん使っていくことが、</p>



(3) その他

3 閉会

会長	<p>役割であり、責務と思う。行政も情報を発信して、これで終わりではなく、これからがスタートで、またいろいろな課題が出てくると思うが、ここで培ったネットワークと絆を大切にやっていければと思う。若い人も入れていくことの大切さを改めて気づかされた。主体的に生活していくことが必要だと思った。</p> <p>中央区が社会的孤立という問題を極めて重視し、先進的、意欲的に取り組む場がまさにこの場であったと思う。そうした中央区の姿勢に心から敬意を表したい。</p> <p>委員の皆さまが、お忙しい中、夜遅いにもかかわらず出席をしてくださった。現実には皆さんが地域の中で取り組んでいる実践から積み上げてこの報告書をつくったことは間違いない。血の通った議論ができた。最初から結論があって行われたわけではなく、ひとつひとつの回を経由して、一人ひとりの意見を反映させて、みんなで力を合わせてつくったものだという事は会長として自負するとともに、皆さまに心より感謝を申し上げる。それでは本日で懇談会は最後となるが、行政を代表して、高齢者施策推進室長の古田島委員から、ひと言、お願いしたい。</p>
高齢者施策推進室長	<p>1年2カ月あまり、6回にわたって貴重なご意見を頂戴して報告書をまとめることができた。これをどう生かすかが今後の課題で、提言をしっかりと施策の中に反映していきたい。</p> <p>これができたからといって終わりではなく、皆さま方と一緒に生かしていきたいと思うので、これからもぜひご協力、連携をお願いしたい。</p>
会長 高齢者福祉課長	<p>最後に事務局から事務連絡をお願いしたい。</p> <p>本日皆さまにご承認いただいた報告書案についてお気づきの点は、7月8日(金)までに高齢者福祉課までご連絡をいただきたい。このあと会長と相談させていただき、報告書を印刷して、9月下旬までには皆さまにお送りしたい。本日をもって懇談会は終了となるが、活発に意見を述べていただき本当に有り難うございました。どうぞこれからもよろしくお願ひいたします。</p>
会長	<p>以上をもって、第6回中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会を閉会する。皆さまのこれまでのご協力に重ねて感謝申し上げます。本日はお忙しい中、ご出席いただき有り難うございました。</p>